



(第40号)

航跡

早稲田ヨットクラブ

2002年12月発行

発行者：理事長 守屋光雄

編集：事務局長 平戸雅幸

やった！ 関東インカレ総合優勝！！ 現場レポート

早稲田大学ヨット部 コーチ 畠山知己 (H6)

第69回関東学生ヨット秋季選手権大会において総合優勝という歴史的な成績を修めることが出来ました。現場レポートをご紹介します。
予選A(10月3日と5日)

今期、このチームは昨年からのメンバーが470とスナイプ合わせて9人と非常に高いポテンシャルを維持したままこの関東インカレに臨んだ。

昨年以上のパフォーマンスを期待させるメンバーがそろい、監督はもとよりスタッフ一同異常なほどに期待をしていた。

予選は昨年のインカレの結果よりAブロックにエントリーされ、日大と明治が同じブロックであった。470・スナイプともに予選トップ通過を目標に2日間を戦った。予選は6レース行われ、470は今期絶好調の主将渋谷・水谷組を筆頭に470リーダー稲葉・重組がこれに負け時と気を吐けば、「ガッツ」の愛称で呼ばれる鈴政・天貝組が非常に安定したレースを行い最終レースまで日大とトップ争いを行った。最終レース、稲葉・重組が堂々のトップを奪い、残る2艇も3位・10位とまとめ最終レースに逆転して予選トップで通過したのである。スナイプは日大の独壇場になってしまった。各レースに1・2位をとられる結果となりレースを追うごとに点差は開いてしまった。また明治の走りも光るものがあり、早稲田スナイプもあせりが見えていた。チームリーダーの築山・三輪組は安定した走りを見せるも、副将門林・小野組が出入りのあるレースを展開し今一つ安定にかけける走りを見せていた。ルーキー関口・中箸組もまた中盤から抜け出せないレースを展開しジレンマに落ちていった。スナイプの予選結果は、日大、明治に続く3位(178点)通過であった。

この時、私はルーキー関口の走りが気になっていた。インカレプレッシャーを1年生ながらに感じ、自分の力量を十分に発揮できない姿がそこにあった。しかし、決勝に向けチーム全体で盛り上げようという空気が流れ始めるのが、今期のチームのいいところである。

決勝初日(10月12日)

10月12日晴れ、風にも恵まれ決勝にはふさわしい条件が揃っていた。しかし、台風接近が気になるところで、徐々にうねりが入り出していた。決勝になると、Bブロックの法政・中央・関東学院・慶応が加わってくるのでレースのレベルもひとつ上がり、かなりエキサイティングなレース展

開が繰り広げられた。

470は日大と法政と三つ巴の戦いになった。日大と法政の女子が速く、常に艇団をリードする形になっていた。トップマークを必ず5番以内で回る安定感には驚いた。しかし、チーム全体が思う様に走っていない。15番以内で回らなければ確実に順位を落としてしまう緊張感の中レースは行われ、初日最終レースを終了した時点で日大78点、早稲田81点、法政83点という僅差で翌日を迎えることになった。470は日大を追う立場となり、翌日以降のレーススタートを待ち望んだ。

スナイプは予選の反省を活かし安定した走りを見せていた。リーダー築山・三輪組、小野・門林組に切れはないものの、終始安定した走り続けた。これに追いつき追い越せてルーキー関口・中箸組はそれ以上の安定した走りを見せていた。予選での迷いのあるセーリングではなく、1年生ながら堂々とした走りで逆にチームを牽引していた。初日3レースが終了した時点で、トップは日大93点、法政111点、早稲田127点であった。スナイプのすばらしいことは、1レース平均45点を死守していることある。近年稀に見る安定した走りをしてきたことを監督は誉めた。

「チャンスは必ず来る」この言葉を学生自身が改めて感じるレースがこのあと待っていた。

決勝2日目(10月13日)

昨日の予想通り台風の影響が朝から森戸の海岸に押し寄せていた。

うねりが入り、とても出艇できる状況ではなかった。運営が協議した結果、運営艇が一度は海上に出るも、レースができるコンディションではなく海岸からボートを出すことも非常に厳しいことから、ノーレースとなった。これで残すのは最終日1日となった。

決勝3日目(10月14日)

昨日の影響は海岸にはなく、穏やかな海面が葉山沖にあった。しかし穏やか過ぎるがゆえに、スタートが出来ない“風”である。今日の最終スタート時刻は12時である。待つこと出艇から2時間、ようやく南の海面からそよそよと風が入り出した。時間は11時になり、この風でスタートすることになった。470は優勝を目前に各大学気合が入っていた。

しかし、この風が運営サイドの思う様にあがってこない、トップマークまで30分と長いレースが始まり、順位は日大、法政が優位に展開。早稲田

のスピンは後方に見えた稲葉・重組であった。このままでは優勝はおろか、法政に抜かれることが予想された。しかし、最終下マークを回る時にはなんと3艇が15番以内に入ってきており、怒涛の追いこみに入っていた。「このままフィニッシュすれば」と期待をしていた。トップ艇がフィニッシュする5艇身前で、タイムリミットのホーンがなる。タラレバを言えば、あと3分あれば早稲田470は優勝をしていたはずだった。監督始めコーチ陣は470の結果に肩を落とした。勝たせたかったが勝利はお預けになった。

まだレースは続いていた。無風にも近い中スナイブは最後の最後までフィニッシュを目指していた。スナイブはコース短縮が決定になり、運営は急いで2上でフィニッシュラインを形成した。1艇がダントツのフィニッシュ(横国)。その後、続いて見える艇団に早稲田のリコールナンバーが3艇も見える。3位に築山・三輪組、11位に小野・門林組、13位に関口・中箸組がキッチリラインを切った。勿論リコールはない。その他のボートも、無風に近い中一生懸命ボート

を走らせフィニッシュラインを横切る。最終ボートはタイムリミット30秒前であった。スナイブは全艇フィニッシュが出来た。スナイブのスタートでリコールがあった模様だ。勝負にあせった日大の1艇がリコールをしており、残る2艇もすべて早稲田の後ろでフィニッシュしている。また法政のスナイブも1艇は2番でフィニッシュをしたのだが残る2艇が30番前後とたたいていた。「もしかするとスナイブが優勝か?」という気持ちで海上を後にする。夕方4時から閉会式が夕方行われた。早稲田大学ヨット部470クラス2位、スナイブクラス優勝、堂々の総合優勝だ。高だかと読み上げられた、表彰式での早稲田大学ヨット部は3年ぶりに関東インカレ優勝を成し遂げたのである。

逆境に強いチームと言うイメージが今期のチームにはあった。このまま全日本選手権まで突っ走り、必ずや全日本インカレ優勝を手中にすることと期待させるのであった。現役諸君、関東インカレ優勝おめでとう。

2002年度全日本インカレ観戦記

早稲田大学ヨット部 コーチ 諏訪康弘(H3年)

今年の全日本インカレは江ノ島で11月1日～4日に開催された。直前に行われた関東インカレで総合優勝して迎えた全日本であり、チームの調子も最高潮、現役諸君の意気込みも並々ならぬものがあつた。有力校は関東では日大・法政、関西では立命館、九州の福大。特に日大と福大が実力的には早稲田と共に優勝候補と目された。

初日・2日目は軽風～中風で風軸も定まらない中でのレース。早稲田は2日目に両クラスともトップを引くレースがあつたし微風下の470が執念のフィニッシュを決めたレースなど、早稲田の実力と優勝へのこだわりの一端を表す展開が随所にあつたが、一方で早稲田にとってはきまぐれな風で不運なレース展開も多々有り、3艇が毎レースまとまってフィニッシュをした470の日大、スナイブの福大に差をつけられた。

3日目。レース海面に到着すると南西が吹き上がり、強風の早稲田の逆転を予感させる状況となった。沈艇も続出するなか、早稲田は6艇とも健闘を見せたが、初日・2日目までの差は詰まらず、最終日は前日の南西が吹き残り、ノーレースとなった。全体の総括としては、展開が変われば優勝を出来たかもしれないという偽らざる悔しい気持ちも有るが、今年は渋田主将を全員で盛り上げて行くチームワークの良いチームで、レースメンバーのみならず、レスキューや陸番で縁の下の力持ちを受け持った部員達も献身的に頑張っており、学生らしい爽やかな印象を与えるシリーズであつた。



470級3位表彰を受ける早稲田メンバ 2002.11.4

4年生は本当にお疲れ様でした。結果こそ総合4位ではあつたけど、君達の作ったチームは今でも日本一になれるチームであつたと思います。自分達の成し遂げた事に自信と誇りを持って、胸を張って卒業して下さい。また新OBとして後輩の指導もお願いします。

3年生以下の諸君。4年生が残した早稲田の良き伝統を継承しつつ、新しい事にチャレンジして、来年の西宮での優勝を目指して下さい。

最後に小池監督を初めとするコーチ陣・スタッフの皆さん、本当にお疲れ様でした。またこの1年、レース会場に足を運んで頂いたOBの皆さん、有り難うございました。今後とも強い早稲田を目指して学生支援のご協力を宜しくお願い申し上げます。

早風遭難40周年追悼会・しのぶ会開催 ～6名の霊に、心新たなるご冥福を～

早稲田ヨットクラブ理事長 守屋光雄 (S40年)

光陰矢の如し、昭和37年11月に、当時早稲田大学ヨット部の大型艇「早風」が初島レースで遭難して、今年で40年目を迎えます。

年月の経過とともに、われわれの記憶からだんだん遠ざかろうとしています。

しかしながら、早稲田のヨットの歴史上、早風の残した教訓やこの出来事を通じた早稲田ヨット関係者の結束を決して忘れてはならない、風化させてはならないことです。

今回の「早風遭難40周年追悼会・しのぶ会」を計画し、事前の諸準備、当日の運営に携わったのは若いOB達です。

平成卒業の昭和37年以降に生まれた、いわば早風遭難を知らない世代のOB達です。

平成2年卒清水さん、天野さん、3年卒の野原さん、4年卒の川島さんのみなさんです。

ここに、「早風遭難40周年追悼会・しのぶ会」を開催した大変意義深いものがあります。

いろいろな意味で早風の残した貴重な体験を必ずやさらに若いOBへ、あるいはこれから早稲田でヨットを志そうとする新しい世代に継承し語り継がれていくことを願ってやみません。

この40年目の節目にあたり、若くして、尊い命を失った6人の霊に、心を新たにご冥福を捧げたい。

彼らの御霊がいつまでも早稲田ヨットの支えになってくれることを。



三戸浜小島合宿所「早風の碑」にて2002.11.10

「早稲田大学ヨット部小島合宿所」の由来は、昭和37年11月3日(1962年)、早稲田大学ヨット部所有の「早風」は、初島レースにおいて暴風雨に見舞われ、OBと現役学生6名が遭難しその尊い命が失われました。

ヨット部は、当時、横浜で合宿をしておりましたが、他界された現役ヨット部員であった故小島

信浩様ご一族の格別のご好意により、昭和43年秋より現在の「小島合宿所」を早稲田大学ヨット部の合宿所として35年間もの永きに渡り使用させて頂いております。

「早風の碑」は三原隆司(32卒)、小島信浩(38卒)、青柳充洪(39卒)、手塚次夫(39卒)、上田淳一(40卒)、斎藤元紀(40卒)の6名の早稲田クルー追悼する碑として建立されました。

(早稲田ヨットクラブでは同期の卒年名簿に加えています。)

当日(11月16日)は、初冬の独特な天候、やや曇天で北風が吹くなか、三戸浜早稲田大学ヨット部小島合宿所「早風の碑」前にて、開催しました。

出席者は総勢85人、現役学生も参加、ご遺族の方も小島さんのご兄弟4名(5男はご夫妻)、手塚さんのお兄さんご夫妻、そして上田さんのお姉さん親子の9名がそれぞれお忙しいなか、遠路三戸浜まで足を運んでいただきました。

追悼会は、天野さんの司会で、守屋理事長の開式の挨拶で始まりました。

堀江さんにクラブを代表して「早風教訓」のご挨拶を頂きました。

引き続いて、ご遺族の皆さんの献花、参加者全員が一人一人「早風の碑」の御前に菊一輪を献花いたしました。



早風クルー6名の遺影

さらに三戸浜の海岸へ出、海上からレスキュー「紺碧」がホーンを鳴らすなか全員で夫々の思いを胸に黙祷いたしました。

その後、浜辺に場所をかえて打ち揃い、相模湾に向かって海へ献花し、全員で「早風」の歌を斉唱いたしました。この時点で、参加者の胸に込み上げて来る思いは最高潮に達しました。



皆で浜辺にて献花

小島通雅(ご長男)さんに遺族を代表してご挨拶を頂き、追悼会の最後は校歌「都の西北」で締めくくられました。

小島様から頂いたご挨拶の中で「そろそろ遺族は卒業させて欲しい。」とのご発言がありました。また、「早稲田はヨット部のほかにいろいろなクラブ活動がある。OBの数も大変多い。もっと地元との交流を図って欲しい。」との意味深長なお言葉もありました。

大学も、研究と教育両面における国際社会、地域社会への貢献が強く期待される時代に入り大きく革新しようとしている中で、我々OB会に対しても変革を求めるとの発言だったのでしょうか。

追悼会の後、会場を代え、「しのぶ会」を開催。

ご遺族の方を囲み、故人のことや当時の思い出をそれぞれ同期の仲間が語り、限られた時間のなかにも和やかな雰囲気の中に終わることが出来ました。

早風追悼式 OB 参列者 (敬称略)

堀江喜三(16) 佐伯浩一(28) 安藤一夫(29) 是枝隆克(30) 加藤文生(33) 木村光成(38) 中島順二(38) 倉谷誠一(38) 出基人(38) 大興太郎(40) 木内博太郎(40) 守屋光雄(40) 杉山孝順(40) 松島弘行(40) 小島朋好(40) 若松徳生(40) 松永ゆみ子(40) 岡部有治(41) 岡部勝美(41) 江上尚良(41) 頼義人(41) 岡田健(41) 佐々木肇(42) 石合幸彦(42) 岡戸義一(42) 武藤忠(46) 藤田亨(46) 平戸雅幸(48) 杉井謙治(48) 大島徳次郎(51) 大原義昭(53) 野口正文(53) 光武勝広(53) 白石裕之(55) 伊熊孝雄(55) 石渡一浩(57) 鎌田等(58) 梅原浩一郎(60) 鈴木光宏(63) 坂部匡(H1) 長谷川正和(H1) 天野寿人(H2) 矢口一馬(H2) 小川嗣業(H2) 田沢洋之(H2) 野原信広(H3) 槐島健(H3) 大濱馨(H3) 諏訪康弘(H3) 藤原雅史(H3) 星野禎介(H4) 福沢剛(H4) 川島太(H4) 柳川卓史(H4) 三浦嘉之(H8) 保田望(H14)

特別寄付

清水正博(22) 原田弘(36) 戸枝隆也(56) 中島健治(56) 清水宏和(H2)

2002年稲魂活動

稲魂担当理事 濱田裕(S30年)

2002年の活動実績を報告します。

学生部員を含め、同期会や家族、勤務先、友人、その他のグループで活用して下さい。動かすことが艇のメンテに必要です。

平成14年の運航実績について

定期運航は、毎月2回、年間を通じて24回。
夏(4月 9月)10時、冬(10月 3月)11時
集合。

「体育実技」の研修艇として、
回航を含め11日間。

佐島マリーナにて、8月2日 8月12日
レースの本部艇、支援艇、観覧艇として

- * 1月13日運航、27日は雪と天気荒れ中止
- * 2月10日、24日に運航
- * 3月は17日、31日 船底塗装、エンジンオイル交換など整備
- * 4月は14日、28日(第2・第4日曜日)運航
- * 5月連休 春季関東インカレ応援(森戸)
- * 5月17日中田さん学院クラス会20名
18日(土)第2回早慶OBレース(葉山)
19日(日)葉山-江ノ島回遊、油壺に回航

- * 6月1日-2日 第67回早慶定期戦本部船
8日-9日 同志社定期戦本部船(畠山)
- * 7月7日、13日葉山回航6大学OBレース
観覧艇
14日葉山-油壺回航。
20日 朝日生命ヨット部回遊(濱田)
28日 夏の大学体育実技の準備・整備。
- * 8月18日、24-25日(久保田OB運航)
- * 9月1日定期運行
東京六大学、五大学定期戦レース(森戸)
- * 10月6、22日 秋季関東インカレ応援
- * 11月4日 全日本インカレ応援(江の島)
- * 12月8、22日(忘年会)

運航予定の連絡方法について

- * 運航予定を、毎月の前月末に「早稲田ヨットクラブ」ホームページに掲載

<http://www.wasedayacht.org/>

- * 独自に運航予定のある学生、OBの場合、
前月25日までに濱田宛に連絡

E-mail: yacht_hamada@yahoo.ne.jp

TEL・FAX・0426-44-8261
携帯・090-1043-2507

<稲魂の江ノ島移転が決定>

永年住み慣れた油壺バースから江ノ島バース

に移転することが決定。大学側の江ノ島バース名義登録手続きは完了し、県側からの正式認可を待って江ノ島バースに移転することになりました。2003年は江ノ島をベースに三崎、油壺、佐島、葉山と広域的な活動が期待されます。

2002年学生ヨットレースの結果

- (1) 2002.4.14 五大学戦 (葉山) 470級3位、S級4位、総合4位
- (2) 2002.5.3~4 関東学生ヨット選手権春季決勝 (葉山) 470級3位、S級5位
- (3) 2002.5.11~12 東京六大学戦 (初声マリーナ) 470級1位、S級3位、総合2位
- (4) 2002.6.1~2 第67回早慶戦 (三戸浜) 470級1位、S級1位、総合1位
- (5) 2002.6.8~9 同志社戦 (三戸浜) 470級1位、S級2位、総合1位

- (6) 2002.8.2~12 体育実技(佐島マリーナ)
- (7) 2002.9.21~22 東京六大学戦 (葉山 森戸海岸沖) 470級3位、S級2位、総合2位
- (8) 2002.9.28~29 5大学戦 (葉山 森戸海岸沖) 470級2位、S級2位、総合2位
- (9) 2002.10.3~15 秋季関東学生ヨット選手権大会 (葉山 森戸海岸沖) 470級3位、S級1位、総合1位
- (10) 2002.11.1~4 全日本学生ヨット選手権大会 (江ノ島) 470級3位、S級7位、総合4位

2002年OBヨットレースの結果

- (1) 早慶ヨットOB定期戦5月18日 葉山 成績2位
参加者: 安藤 S29, 米田 S29, 鈴木 S30, 濱田 S30, 是枝 S30, 舟岡 S31, 日色 S31, 土肥 S36, 斎藤 S40, 石合 S42, 原田 S46, 春日 S48, 杉井 S48, 平戸 S48, 新沢 S48, 早川 S49, 坂爪 S55, 香田 S56, 久保田 S62, 神沢 S62, 鈴木 S63, 畠山 H6, 大塚 H9, 原田 H10, 福田 H9, 拓殖 H9
- (2) 10大学ヨットレース
6月2日・3日 諏訪湖不参加
- (3) 東京6大学ヨットOB戦
7月1日 葉山 成績5位
参加者: 米田晴 S29, 是枝 S30, 千葉 S30, 鈴木賢 S30, 遊佐 S30, 濱田 S30, 舟岡

- S31, 日色 S31, 武村 S32, 中田 S32, 土肥 S36, 原田武 S37, 守屋 S40, 大 S40, 松島 S40, 岡戸 S42, 大原 S42, 石合 S42, 千津井 S42, 原田浩 S46, 平戸 S48, 新沢はるみ S48
- (4) 全日本Aクラスディンギー選手権大会
7月28,29日 西宮
成績26位 (参加40艇)
参加者: 千葉 S30, 加藤 S33 他十数名
- (5) 4大学OBヨットレース10月12,13日 琵琶湖 成績2位
参加者: 濱田 S30, 並木 S34, 足立 S36, 吉田秀 S36, 石合 S42, 北嶋 S45, 平戸 S48, 坂東 S59, 藤井達 S50, 入江 S61

関西支部ミーティング ~大阪の集い~ 参加報告

早稲田ヨットクラブ会長 土肥丈志 (S36年)

11月15日夜、関西支部OB会のミーティングがあり大阪まで行って参りました。参加者の皆さん非常に喜んで下さり私も態々出掛けた甲斐がありました。又席上、今後の関西方面の催しには関西支部が中心になり参加していただき我々はそれをサポートするような体制で行きたいとお話ししたところ快くご承諾いただきました。

2003年の全日本インカレは西宮開催予定です。いろいろと応援をお願い致します。

旧交を温める昔の思い出話に花が咲き極々気楽な楽しい会でした。

大阪の皆さんは中々とまとまりが良く和気藹々で東京の我々も多に見習う必要があると感じました。

出席者 (敬称略 カッコ内は卒年)

足立 (S36), 吉田 (S36), 小阪 (S41), 斑目 (S46), 尾原 (S47), 濱田 (S48), 宮本 (S48), 藤井達 (S50), 入江 (S60) の各OBでした。

最後に紙面を借りまして、世話役の濱田さん初め皆さんに心より御礼申上げると同時に今後とも宜しく早稲田ヨットのご支援をお願い申上げます。

シーズンヨット実技 ～女子学生多数参加～

早稲田大学体育局講師 石合幸彦 (S42年)

8月2日～12日佐島マリーナにて、8/2-7, Aコース26名、8/7-12, Bコース36名が参加して実技を実施しました。

Aコースは全日程セーリングが出来たが、Bコースは強風がつづく天候不順で、実技が出来ないときの対策に課題が残った。



ヒールを潰す実技生

佐島漁港の協力により大型艇(稲魂、海潮)は大変効率良く運用出来た。



早稲田フラッグシップ「稲魂」

学生を中心に、18名ものOBにご協力頂いたこと、誌上を借りて改めてお礼申し上げます。後日、大学に実技報告に行った際、本年女子の実技参加が多かったのは実技要綱の表紙を飾った2001年度の実技写真に女子が写っていたことによる影響が大きいとのことでした。大学側によると大学体育実技の中でも希望者が多く上位にランクされているようです。また、早稲田ウィークリー「こんな授業!どんなゼミ」に体育局シーズン実技ヨットの記事が取り上げられました。(2002年平成14年10月10日第976号)



出艇前に全員集合 2002.8.11

早稲田ヨットのありべき姿 ～アンケート結果を踏まえて～

早稲田ヨットクラブ事務局長 平戸雅幸 (S48年)

先に実施されたアンケート回答から寄せられた具体的なご意見、ご提言をもとに、理事会事務局が中心となって「WYC アンケート報告書」がまとめられました。

アンケートの実施については平成13年理事会で提案されて検討されておりましたが実施に至らず、2002年3月に航跡39号(2002年4月)発刊準備と合わせて、急遽電子メールを使った事前検討を経て実施されたものです。

アンケートに戸惑われたOBの方もさぞ多かったことと推測されますが、お寄せ頂いた回答の中にはアンケートを実施すること自体が変わりつつあるとの期待の声もありました。

何分、月次の定例理事会という限られた場だけでは十分な踏み込んだ検討までは至らなかった点、またご回答頂いた方に対してはご報告が遅れたことは大変申し訳ない事とお詫びいたします。

しかしながらアンケートの結果から、今後の早稲田ヨットの進むべき道筋についての、おおよその考え方の方向付けはなされたものと思われま

す。

以下にその一部をご紹介します。詳細は別添の「WYC アンケート報告書」をご高覧ください。

このアンケート結果を踏まえ、一歩ずつ出来るところから着実に進めていくことが次年度以降の課題と考えます。

早稲田ヨットの新たな目標に向かって皆で舵をきろうではありませんか。

【アンケートの背景について】

WYC アンケート報告書の土肥会長巻頭言より引用いたします。

「既に皆様方ご承知の如く近年の早稲田大学の変貌・変革は著しく又その速度も驚く程のものが有ります。

その中でも特に我々に関係する大学体育関係の動きについて申し上げます。

大学は早稲田スポーツがかつてのように内外より認められる早稲田の復活をめざした各競技スポーツ部の強化に加えて、それだけでなくスポーツを現代に生きる人間が必要不可欠な文化として捉え、体育実技(保健体育科目)を他の学部教科と同様、オープン教育センターの教科として捉えつつあります。

このような動きは流動的な面もありますが、方向としては確実であります。

平成15年には、新たにスポーツ科学部が新設され、初めての学生募集が開始されました。

この新学部は世界レベルでのトップアスリートの養成、スポーツ分野に於ける指導者の養成を目指し、教育内容もスポーツ生理学等の極めて学術的にもハイレベルなものを志向しております。

我々OB会は、これまで部活動と体育実技の両方に深く関わって参りましたが、大学の動きと連携して、これからはより一層専門的に、より深化した形で対応していかなば成らない変革の時期に入ってきていると感じております。」

このような背景の中で、今回のアンケートが実施されました。

【アンケート報告書の提言より】

- (1) 新しい指導とクラブ作りを目指す
- (2) 理事会機能の活性化を図る
- (3) 専門技術(ルール、ジャッジ、計測)等の研究会・勉強会の実施
- (4) 大学と連携したOB会活動の推進
- (5) ヨット部基盤強化のための中長期的戦略の策定
- (6) 現役学生とOB会とのコミュニケーション緊密化を図る
- (7) OB会行事開催を工夫改善する
- (8) OB会の世代ギャップを解消する
- (9) 現役ヨット部の自立を喚起するなど

【具体策の方向付け】

課題毎に各委員会を設置する。

各委員会は委員長(副会長)1名、各年代を広く跨った理事数名で構成する。

各委員会は早急に、ヨット部と早稲田ヨットクラブの基盤を強化するために中長期敵な戦略の策定と答申を行い、今後の具体策の推進を図っていく。

- (1) 強化委員会(OB/現役連携)
 - (2) 財政強化委員会(含む規約改正)
 - (3) 親睦レース等催し物委員会
 - (4) 広報・情報委員会
 - (5) 大学連携委員会
- など

事務局だより

< 上期就職等予定 >

・2002年3月卒業予定
 波田宏和(在学) 稲葉洋介(セブチ-21オープン入) 中箸豊(野村証券) 築山明弘(三井不動産販売) 門林寛行(在学)

< 会費納入の案内 >

会費については、毎年1月27日に銀行口座から自動引落しをさせて頂いております。残高不足にならないよう確認をお願いします。

自動振込でない方は、OB 会銀行口座へ直接、**2003年度(2003.1~2003.12)会費2万円**を振込み願います。

(銀行振込先)

早稲田ヨットクラブ会費振込先銀行口座：
 みづほ銀行 日本橋支店 1445739
 口座名義：早稲田ヨットクラブ

< 早稲田ヨット ポータルサイトご紹介 >

早稲田ヨットクラブは、大学やヨット部ホームページ等関係先へのリンクを持つポータルサイト(玄関口の意) <http://www.wasedayacht.org/> を開設しています。春日孝信(S48)夫人のご協力で骨格ができました。未だ、準備中の部分や今後の課題も多いですが、メーリングリストやヨット部のページも包含しており、機関誌「航跡」の発刊に加え、21世紀の新しいスポーツクラブの情報発信が出来ればと期待しております。建設的なご意見をお寄せ下さい。

メールの通じていない同期の方、特に先輩OBの方へは XXXX@wasedayacht.org なる E-mail アドレスを用意することも出来ますのでご要望があれば事務局まで問い合わせ下さい。

ホームページのうち、一部は会員限定になっています。Member's Room に入るには、IDとパスワードが必要です。

IDは **wasedayacht**, パスワードは、早稲田フラッグシップ名：**XXXXXXXXXX**です



早稲田ヨットポータルサイト



Member's Room(会員限定)のWYC掲示板

今後の、ホームページの拡充予定：

- ・WYCの70年史(記録写真を募集中)
- ・WYC会員所有艇情報

< 理事会の開催 >

理事会に気軽に参加下さい。会員皆様のご意見ご要望をお待ちしております。

日時：毎月第3木曜日

場所：赤坂永楽倶楽部(千代田区永田町2-12-4 山王興和ビル7階) 電話 03-3580-0046

(注)開催案内、議事次第、理事会議事録はホームページ Member's Room(会員限定)に掲載していく予定です。

< 寄付の窓口 >

早稲田大学ヨット部へ指定寄付を希望される方は、事務局までお申し出ください。大学の領収書が発行され、税の優遇がえられます。

< ご意見をお寄せ下さい。 >

WYC 会長 土肥丈志

E-mail: doi-takeshi@bea.hi-ho.ne.jp
 〒158-0082 東京都世田谷区等々力3-16-19
 : 03-3704-1383
 ファックス番号: 03-3862-0703

WYC 理事長 守屋光雄

E-mail: moriya@ma.catv.ne.jp
 〒154-0001 世田谷区池尻3-28-21
 : 03-5481-6610
 ファックス番号: 03-5481-6610

WYC 事務局長 平戸雅幸

E-mail: masayuki.hirato@nifty.ne.jp
 〒232-0061 横浜市南区大岡1-52-10
 : 045-715-4498
 ファックス番号: 045-715-4496
 携帯電話: 090-9857-4726